

説 教：「イエスに従う」

(詩編 101 編 1-8 節 ルカによる福音書 5 章 1-11 節)

2023 年 1 月 15 日 主日礼拝説教

日本基督教団仙川教会 大串肇

聖書の中にはイエスと出会い、新しい人生を歩み始めた人々の記録が記されています。今朝お読みいたしましたペトロもその一人でした。イエスが「ゲネサレト湖」すなわちガリラヤ湖畔に立っておられると、神の言葉を聞こうとして、群衆がその周りに押し寄せて来ました。

しかし、イエスが注目したのは大勢の群衆ではなくて、一人ひとりでした。群衆に対して話を終えてすぐにイエスがお声をかけたのはシモンことのちにイエスの一番弟子になるペトロでした。イエスはこう語りかけました。

「沖に漕ぎ出して網を降ろし、漁をなささい」(4 節)。

もう一晩中かれらは漁をしていたのです。ところが何も取れなかったのです。もうクタクタです。もう夜が明けて陽も昇り、いくら網を降ろしても無駄であることはベテランの漁師であるペトロには明らかでした。しかもペトロたちは疲れ果てていたのです。

「しかし、お言葉ですから、網を降ろしてみましよう」

ペトロはイエスのみ言葉に聞き従ったのです。イエスのことを救世主であるとか、神の子であるとか、100 パーセント理解していたわけではなかったはずですが。どちらかと言えば、まだ半信半疑です。自分の姑の病気をイエスは癒してくださいました。そういう意味では恩人です。しかしイエスが奇跡を起こすなど夢にも考えていなかったはずですが、

漁師たちがそのとおりにすると、おびただしい魚がかかり、網が破れそうになった。そこで、もう一そうの舟にいる仲間に合図して、来て手を貸してくれるように頼んだ。彼らは来て、二そうの舟を魚でいっぱいにしたので、舟は沈みそうになった (6-7 節)。

ペトロにはイエスの言葉を拒否する理由はいくつもあったはずですが。疲れているから、忙しいから、そんなことをしても無駄だから……。現代科学の時代

でも、多くの人々が聖書やキリスト教に関心があります。むしろいろいろな意味で今求められていると思います。しかし、キリスト教の理解は様々な機会を通して可能ではありますが、神を信じる信仰と知識や理解や、わたしたちの常識や習慣とは異なっているように思えます。

例えば、今朝の聖書をあらためて読んでみますと、イエスの出会う人々は何か特別の才能を持ち合わせた人であるとか、特別な身分の人でもありませんでした。ペトロはふつうの人であります。ガリラヤの漁師に過ぎません。ところがイエスはそのようなふつうの人に呼び掛け、神のみ国へ招いているのです。

他方、ペトロは聖書の知識がないとは言えませんが、聖書学者でも宗教的指導者でもありません。それどころか、イエスの呼びかけにも半信半疑です。

ところが、イエスは自分のようなものに語りかけてくださる。そこで「お言葉ですから、網を降ろしてみましよう」とイエスの語った「言葉」を信じて行動したのです。ところがその結果、自分の想いを超えるような奇跡が起こったのです。漁師の常識では考えられないような形で、船が沈むほどの魚が網にかかったのです。イエスの言葉に信頼して、行動するとき、何かが起こるのです。何かが変わるのです。ペトロ自身が変わられたのです。8節です。

これを見たシモン・ペトロは、イエスの足もとにひれ伏して、「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者なのです」と言った。

罪深いというのは、何か犯罪をおかしているという意味ではなく、このままでは神のみ前には立つことのできない人間の弱さであり、神さまのみ心から離れて自分中心に生きてきた、ありのままの姿をそう呼んだのです。

ペトロは主イエスの愛の大きさにふれたとき、自分の本当の姿が見えたのです。それが「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者なのです」という告白の言葉の意味です。

わたしたちは完全な人間になってはじめて神にたどり着いて救われるものではありません。ペトロがイエスに声をかけられたのは、むしろ弱い存在であったからです。そのような自分を主イエス・キリストはそのまま受け入れてくださったのです。

この主イエス・キリストの愛に出会うとき、それで終わりではありませんでした。主イエスはペトロに新しい人生の扉を開いて下さったのです。

「恐れることはない。今から後、あなたは人間をとる漁師になる。」そこで、彼らは舟を陸に引き上げ、すべてを捨ててイエスに従った。」

(10 - 11 節)

イエスはユーモアに満ちた方でした。魚捕りが人間を取る漁師になるとは、伝道者になるという意味です。自分の糧のために魚を取って生活する者が、隣人を救うために、神に導くために人間を導く人生へ招かれた。180度、人生の生き方が変わった方向に導かれたのではないのでしょうか。

イエスとの出会いを通してペトロに新しい使命が与えられました。ふつうの人にそんな勇氣はありません。しかしその重い使命をやり通すのは彼自身の力ではなく、イエス・キリストの愛です。のちに復活したイエス・キリストは、イエスを裏切ったペトロにこう語りました。

「ヨハネの子シモン、この人たち以上にわたしを愛しているか」と言われた。ペトロが、「はい、主よ、わたしがあなたを愛していることは、あなたがご存じです」と言うと、イエスは、「わたしの小羊を飼いなさい」と言われた。(ヨハネによる福音書 21 章 15 節以下)

「恐れることはない」と励まして下さるからこそ主イエス・キリストに従うことが出来たのです。聖書から今朝わたしたち一人一人にこの主イエス・キリストの招きの声が聞こえて来るでしょう。わたしたちの人生の様々な局面で、主イエス・キリストはわたしたちと出会い、「従いなさい」と招いて下さるのです。この招きの声にわたしたちの心を開き、イエスに従って歩んでまいりましょう。お祈りいたしましょう。